

ぼくの相ぼうへ

ぼくの上ばきは、いつも大体お兄ちゃんのお下がりだ。お兄ちゃんがいつも大事にはくから、ぼくにまわってくる。ある時、とつぜん、学校の上ばきがマジックテープのついたさい新がたの上ばきにかわった。だんだん古い上ばきをはいている人が少なくなつて、ついに、古い上ばきをはいているのは学年でぼく一人だけになった。ほけんの先生は、ぼくの上ばきを見て、「先生は古い上ばきの方がすきよ」と言ってくれた。実はぼくもだ。く

つのうらはツルツルで、くつぞこがやぶれて
いるけど、お母さんがピカピカにあらつてく
れるから、月曜の朝はパリッとしててかっこ
いい。ゴムの部分がヨレヨレなもの、ぬのの
部分がクタクタなもの、はきやすくて気に入
っている。はき心地はばつぐんだ。

それなのに、ごめんね。君とはもうおわか
れなんだ。ぼくの足が大きくなりすぎて、も
うはいてあげることができない。今までずつ
とぼくの足を守ってくれてありがとう！